

実践報告

構成的グループエンカウンターが新入生の関係作りに 及ぼす教育効果

天 野 雅 斗

要約

近年、大学生活に適応できない学生が増加し、全国の大学で問題となっている。そこで、星槎道都大学経営学部では大学生活の適応不全の対策として、新入生交流会で構成的グループエンカウンター（SGE）を実施し新入生同士の関係作りを促進させる取り組みを実施した。入学早期の学生に「自己理解」や「他者理解」を促進させるSGEを行うことで、参加者は自己開示をし、自他理解を深め、今まで気づかなかった自分（自己盲点）に気づき、他者の多くのことを知り、リレーション（人間関係）を深めることができた。自由記述の回答からも、学生自身が気づいたり、感じたり、変容したりしていることが表われていることから、SGEを大学の教育現場でも継続的に実施することが、学生のより良い大学生活につながる一助になると考えられる。

1. はじめに

近年、大学の学びに適応できない学生が増加し、全国の大学で問題となっている。背景には大学の大衆化・ユニバーサル化により、これまでは大学に入学してこなかった層が大量に大学に進学するようになったことだけでなく、家庭・地域教育の変容など多様な要因があると考えられる。そこで、学生の適応不全への包括的な対応として重視されているのが、大学入学後の最初の1年間の教育、すなわち「初年次教育」である¹⁾。

初年次教育学会（2007）は、初年次教育について以下のように述べている²⁾。初年次教育は1970年代後半から80年代前半にかけて、アメリカの多くの高等教育機関で導入され、学生の中退率抑制や学生の“成功”に有効な教育プログラムであることが評価され、現在では世界20カ国以上に広がっている。その背景として、高等教育のユニバーサル化の進行に伴い、多様な学生が高等教育

に進学するようになる一方で、卒業時の質保証が求められるようになり、入学した学生を大学教育に適応させ、中退などの挫折を防ぎ、成功に水路づける上で初年次教育が効果的であるという期待や評価が高まっているからである。こうした高等教育を取り巻く環境変化は、日本の高等教育機関にも及び、近年、学力・学習目的・学習動機・学習習慣の多様な学生を受け入れるようになってきている。

2008年4月に出された、中教審大学分科会制度・教育部会「学士課程教育の在り方に関する小委員会」による『学士課程教育の再構築に向けて』（審議経過報告）³⁾においても、高等学校から大学への円滑な移行に果たす初年次教育の重要性が指摘され、学士課程教育の中に明確に位置づけることが提言されている。

これらの国内外の諸状況の変化を背景に、日本でも初年次教育は急速な拡がりを見せ始め、研究者による研究の成果や担当教職員による効果的な

プログラムの構築が増加している。しかし、まだまだ日本での実践や研究実績の蓄積とそれらの共有は十分とはいえず、実践的な教育内容や効果的な教育方法の開発や改善に加え、初年次教育の教育効果の測定や理論的な説明をはかり、初年次教育のもつ重要性を日本の高等教育界に定着させていく必要が高まっている。

学校法人河合塾教育研究部（2009）は初年次教育調査報告⁴⁾にて、大学の大衆化・ユニバーサル化を背景として、これまでは大学に入学してこなかった層が大量に大学に進学するようになったこと。そのことを含めて全体的に学生の大学への適応不全が起こっており、これへの包括的な対応が大学入学後の最初の1年間に強く求められるようになったこと。これに対応するために、具体的には表1に示す8項目を目的とした大学1年生に対する教育を初年次教育と定義している。

本学、星槎道都大学では、星槎の三つの約束「人を認める・人を排除しない・仲間を作る」を教育理念に、共生社会の実現に資する有為な人材を育成することを目的としている。この教育理念のもと、経営学部では新入生の初年次教育に力を注いでいる。その中でも入学直後の新入生交流会で構成的グループエンカウンター（SGE）を実施することで、早期に学生の「自己理解」や「他者理解」を促進させ、初年次教育の目的の1つでもある“⑤大学の中で人間関係を構築する”ことを促進させる取り組みを2023年、2024年の2年間連続で実施した。エンカウンター（出会い）とは、本音を語り合い、それを互いに耳を傾け、共感し、認め合う体験のことである。この体験が、自身と他者の価値観の違いに対する気づきをもたらし、人と

ともに生きる喜びや、我が道を力強く歩む勇気をもたらす。そして、構成的グループエンカウンターとは、さまざまな課題をグループで行い、その際の気持ちを率直に語り合う「心と心のキャッチボール」を通じて、徐々にエンカウンター体験（自身の価値観との出会い、他者の価値観との出会い、など）を深めていくものである⁵⁾。現在は学校に導入されているほか、企業研修会、看護介護訓練などで広く行われている。本研究では、道徳の授業や人権学習でもよく扱われる教材「権利の熱気球」を新入生に実施することで自己理解や他者理解が促進され。新入生間のリレーション（関係）作りが促進されたかどうかを検証した。

2. 目的

本学の学生が大切にしている権利（価値観）を調査することは、教育現場での学生指導に大いに活用できると考える。本研究では2023年、2024年の経営学部新入生交流会で実施したSGEの結果から、新入生の価値観を明らかにするとともに、新入生間の関係作りにSGEがどのような効果を及ぼしたかをSGE実施後のアンケート調査結果（自由記述回答）より明らかにすることとした。

3. 方法

2023年度、2024年度の入学生196名から回答を得た。構成的グループエンカウンター（Structured Group Encounter：SGE）とは「集中的グループ体験」のことである。「ふれあいと自己発見」を目的にしている。それを通して参加者

表1 大学における初年次教育の目的（定義）

①学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける
②高校までに身につけておくべき学力の不足分を補習する
③大学という場を理解する
④人としての守るべき規範を理解する
⑤大学の中で人間関係を構築する
⑥レポートの書き方、文献探索方法など、大学で学ぶためのスタディスキルを獲得する
⑦クリティカルシンキング・コミュニケーション力など大学で学ぶための思考力を身につける
⑧高校までの受動的な学習から、能動的で自立的・自律的な学習態度への転換を図る

表2 10個の権利

- ①スマートフォンを所有し、使用する権利は何番目に大事だと思いますか？
- ②きれいな空気を吸う権利は何番目に大事だと思いますか？
- ③正直な意見が言え、それを聞いてもらえる権利は何番目に大事だと思いますか？
- ④自由に使えるお金を持つ権利は何番目に大事だと思いますか？
- ⑤いじめられたり、命令服従されたりしない権利は何番目に大事だと思いますか？
- ⑥職業を自由に選択できる権利は何番目に大事だと思いますか？
- ⑦愛し・愛される権利は何番目に大事だと思いますか？
- ⑧毎日、十分な食べ物と、きれいな水を与えられる権利は何番目に大事だと思いますか？
- ⑨みんなと異なっていることが認められる権利は何番目に大事だと思いますか？
- ⑩スポーツをする権利は何番目に大事だと思いますか？

の「行動変容」と「人間成長」を目標にしている。それゆえ人間関係開発を意図した教育アプローチであるといえる。SGEである「権利の熱気球」は、重さからの解放であり、表2にあるような10個ある荷物（権利）を1つずつ捨てなければならぬ。なお、本学の学生の特徴を捉えるために権利の項目を本来の形から変更している。自分ならどれを捨てるかを順位付けする。各自にとって、捨ててもいい最も優先順位の低いもの（10位）から、捨てられない最も優先順位の高いもの（1位）までを選ぶ。その後、班でじっくり話し合っ、班単位での優先順位を決定。最終的に班単位での優先順位を決めて、それを発表する。

班単位で優先順位を決めるときのルールとして、A. 優先順位（捨てる順番）は、決して多数決で決めないこと。それぞれが理由をきちんと述べ、ほぼ全員が納得のいくまでじっくり話し合う。B. 少数意見を大切にすること。個々のメンバーが、なぜ、その権利を大切にしているのか、その理由をきちんと傾聴し、理解し、共感することをルールとした。

・構成的グループエンカウンターのエクササイズメニュー

ネームプレート作成 5分間 ⇒ 好みの色画用紙にペンネームを書き首に掛ける。

権利の熱気球(個人) 5分間 ⇒ 熱気球の危機を回避するため権利を捨てていく。

自己紹介 5分間 ⇒ 班で出会った人と挨拶をし、ペンネームを紹介する。

権利の熱気球(班) 25分間 ⇒ 熱気球の危機を回避するため権利を捨てていく。

発表 30分間 ⇒ 集団の中で気づきや発見を共有する。

4. 結果と考察

4-1. 権利の優先順位

権利の優先順位を以下に示す。また、各項目に対して各班が選択した1位から10位の優先順位の割合を図1に示す。

- 1位：毎日、十分な食べ物と、きれいな水を与えられる権利
- 2位：きれいな空気を吸う権利
- 3位：いじめられたり、命令服従されたりしない権利
- 4位：愛し・愛される権利
- 5位：正直な意見が言え、それを聞いてもらえる権利
- 6位：自由に使えるお金を持つ権利
- 7位：みんなと異なっていることが認められる権利
- 8位：職業を自由に選択できる権利
- 9位：スマートフォンを所有し、使用する権利
- 10位：スポーツをする権利

4-2. 自由記述回答（権利の順位づけを体験して気づいたこと）

新入生が「権利の熱気球」のグループワークを通じて気づいたことの中で、多く見られた意見は以下の通りである。

人それぞれの価値観の違い：「人によって価値観が違う」、「色々な意見がある」、「自分と違う意

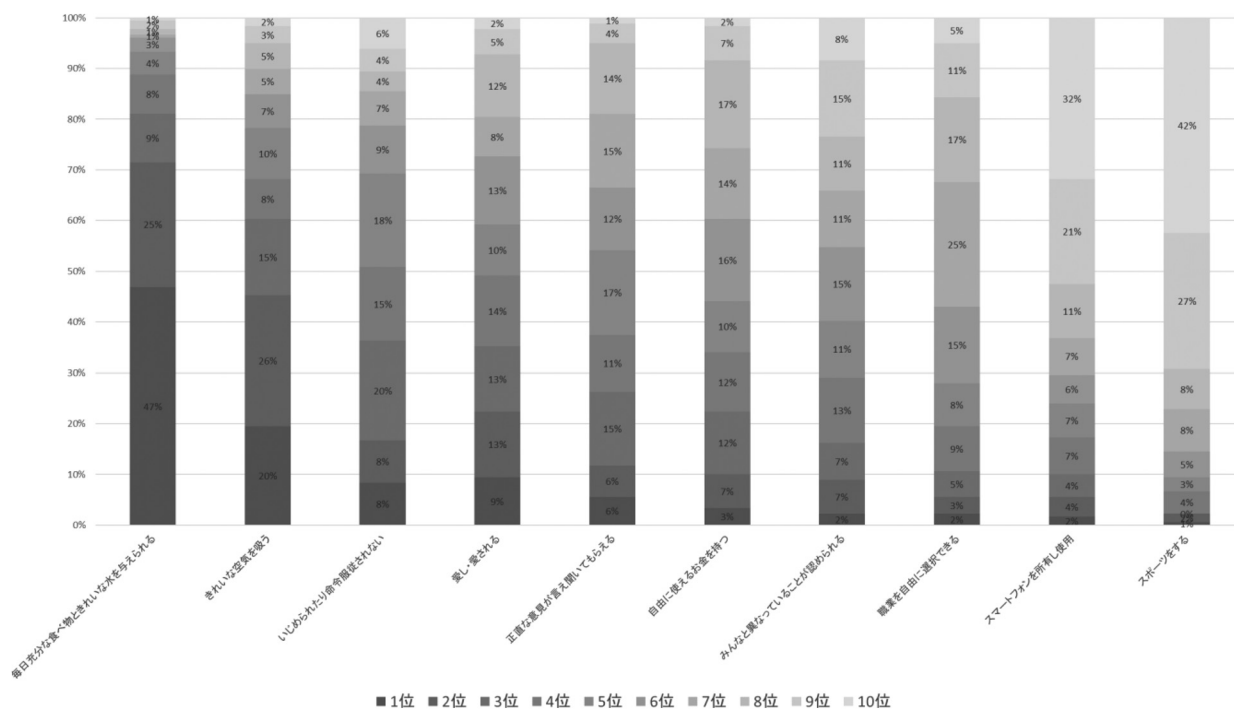


図1 権利の優先順位（各項目における1位～10位の割合）

見に触れることができた」、「個人個人で価値観の相違がある」。

コミュニケーションと交流の重要性：「他の人の意見を聞くことができて良かった」、「話し合うことで仲が深まった」、「積極的に話し合ったことで良い経験になった」、「交流することで新しい発見があった」。

生きるために必要なものの優先順位：「生きるために必要なものの優先順位が高い」、「食事や水が重要だと気づいた」、「スマートフォンやスポーツは優先順位が低いと感じた」。

本研究で独自に追加したスポーツをする権利やスマートフォンを所有する権利、職業を自由に選択できる権利は全て下位であり、スポーツ特待生が多く在籍している本学部において、スポーツをする権利が最下位であったことは興味深い結果であった。

新入生が「権利の熱気球」のグループワークで得た気づきの傾向は以下の通りである。これらの気づきから、新入生たちは今回のSGEで多様な価値観を尊重しつつ、効果的なコミュニケーションを通じて意見をまとめる重要性を学んだことが

伺える。

多様な価値観の認識：新入生は、人それぞれ異なる価値観や優先順位を持っていることを認識し、価値観の違いを学んだと感じていた。これは、個々のバックグラウンドや経験が異なるためであり、その違いがグループでの話し合いを通じて浮き彫りになったようである。

共通点の発見：異なる意見の中にも、共通の優先順位が見つかることが多かったようである。特に「生きるために必要なもの」に関しては、多くの学生が共通の認識を持っていた。

コミュニケーションの価値：話し合いや意見交換を通じて、他の人の考え方や感じ方を理解することの重要性を再確認していた。また、意見の相違があってもそれを調整するプロセスが重要であり、コミュニケーションスキルが求められることに気づいていた。

意見の調整の難しさ：多様な意見をまとめることの難しさや、妥協点を見つけることの難しさも感じていた。特に、多数決ではなく、全員の意見を取り入れて調整することが大変だという意見が多く見られた。

グループワークの経験の価値：グループワーク

を通じて単に意見を共有するだけでなく、実際に意見をまとめるプロセスを経験することで実践的な学びがあったことが強調されていた。

他人の意見を聞くことの重要性：多くのコメントが、多様な意見を聞くことの重要性を強調していた。他人の意見を聞くことで、新しい発見があり、初めの順位付けを見直すこともあったと述べられていた。

価値観や視点の多様性：それぞれの人が異なる優先順位を持っていることが繰り返し言及されていた。特に食べ物や水、自由などの基本的なニーズに関する順位付けに違いが見られ、この多様性が参加者にとって難しくもあり、啓発的でもあったようである。

合意に達することの難しさ：様々な意見を一つにまとめることの難しさを述べたコメントがいくつかあった。この取り組みを通じて、グループでの意思決定がいかに複雑であるかを理解したという意見も見られた。

基本的なニーズの優先度の高さ：多くのグループで、食べ物や清潔な水、金銭など、生活の基盤に関わる権利が高い順位に付けられる傾向があった。これにより、基本的な生活必需品に対する共通の理解があることが分かった。

グループディスカッションからの学び：新入生は、他の人の価値観と比較することで自分自身の価値観を見つめ直す機会が得られたと感じていた。自己認識や学びが、話し合いの貴重な成果であると強調されている。

権利に順位をつける難しさ：いくつかのコメントでは、異なる権利に重要度の順位を付けることの難しさが述べられていた。すべての権利が重要であると感じる人が多く、順位をつけることが窮屈であると感じた人もいた。

オープンなコミュニケーションの大切さへの認識：オープンな議論に参加し、自分の意見が聞かれることがポジティブな経験だったと感じる新入生が多くいた。自分の意見を共有し、他の人から認められる機会を大切にしているようである。

4-3. 自由記述回答（どのようなことを大切にして大学での4年間を過ごしたいか）

新入生が「権利の熱気球」のグループワークから気づいたことを踏まえ、どのようなことを大切にして大学での4年間を過ごしたいかという問いに対する順位別回答を以下に示す。

他人の意見の尊重とコミュニケーションの大切さ：他人の意見や価値観を尊重しながら、積極的にコミュニケーションを取りたいという意見が最も多く見られ、大学生活で他者との関わりを大切にし、異なる意見に耳を傾けることの重要性が強調されていた。

自己成長と柔軟な思考：自分の意見を大切にしつつも、他の意見を取り入れることで考え方の幅を広げたい、自身の視野を広げたいとする意見が多く見られた。他者からのフィードバックを受け入れ、自分の価値観を柔軟にすることで成長を目指す姿勢が強調されている。

充実した大学生活の実現：大学生活を通して積極的に活動し、やりたいことをめいっぱい楽しみたいとする意見も多かった。友人関係を築いたり、勉学を頑張ったりと、大学での時間を有意義に過ごしたいとの意見が繰り返し見られた。

相手を尊重した協力関係：協調性を持ち、他者と意見交換をしながら協力していく姿勢を大切にしたいとする意見も多く見られた。話し合いを通じて、お互いが納得できるように意見を交わし、結論を導き出すことの重要性が記されていた。

自分の意見を持つこと：他者の意見を尊重しながらも、自己主張をしっかりとしたいという意見も多く見られた。他人に流されず、自分の意見を持ち発言できるようにしたいという自立心が感じられた。

多様な価値観の受容：人それぞれ異なる価値観や文化があることを理解し、受け入れたいとする意見も目立った。多様性を理解し、他者と調和しながら生活することの大切さが記されていた。

愛と感謝の姿勢：周りの人々や環境への感謝、愛情を持って生活する姿勢を大切にしたいとの意見が見られた。自分だけでなく、他人とともに幸

せを追求しようという温かい考えが含まれていた。

健康的で楽しい生活の追求：健康を大切にし、充実した生活を送りたいとする意見も多くあった。学業と生活のバランスを取りつつ楽しい大学生活を送りたいとの意欲が伝わってきた。

時間と優先順位の管理：時間を大切にし、物事の優先順位を考えて行動したいとする意見も一定数見られた。大学生活の中で効率よく行動するための自己管理が重要視されていた。

5. 終わりに

今回のSGEでは、他者の意見を尊重しつつ自己成長を目指し、充実した大学生活を送りたいとの意見が多く、共感を集める良い機会となった。また、自己管理や多様性の受容、愛と感謝を持って過ごす姿勢も多くの新入生にとって重要であるという共通認識があることを明らかにすることができた。新入生交流会は学生同士あるいは教員と学生が顔と顔を合わせて、言語的・非言語的コミュニケーションをする初めての機会である。参加者は授業中いきいきとしており、意欲的に取り組んでいた。授業を通して自己開示をし、自他理解を深め、今まで気づかなかった自分（自己盲点）に

気づき、他者の多くのことを知り、リレーション（人間関係）を深めていた。グループワークの中で、「人を排除しない」「人を認める」「仲間を作る」という星槎道都大学の共生の理念を実践していたと考える。感想文を見ると、学生自身が気づいたり、感じたり、変容したりしていることが表われていたことから、SGEを大学の教育現場でも学生たちに継続的に実施していくことが、学生のより良い大学生活につながる一助になると考えられる。

引用・参考文献

- 1) 学校法人 河合塾 教育研究部 (2009) 「2008-2009 年度 初年次教育調査報告書 (要約版)」
- 2) 初年次教育学会「設立趣意書」<https://www.jafye.org/society/prospectus/> (2024.12.19)
- 3) 中央教育審議会 大学分科会 制度・教育部会 (2008) 「学士課程教育の構築に向けて (審議のまとめ)」
- 4) 河合塾編 (2010) 「初年次教育でなぜ学生が成長するのか 全国大学調査から見てきたこと」
- 5) 図書文化社 構成的グループエンカウンター
<http://www.toshobunka.jp/sge/whats/index.htm> (2024.12.19)

The educational effect of structured group encounter on relationship-building among new students

AMANO Masato

Abstract

In recent years, the number of students struggling to adapt to university life has been increasing, becoming a significant issue at universities nationwide. To address this problem, the Faculty of Business Administration at Seisa Dohto University implemented a Structured Group Encounter (SGE) during new students' orientation to promote relationship-building among new students. By conducting SGE, which encourages “self-understanding” and “understanding others” among students early in their university experience, participants were able to engage in self-disclosure, deepen their understanding of themselves and others, become aware of previously unnoticed aspects of themselves (blind spots), learn more about their peers, and strengthen their relationships. The responses in the free-text section show that students experienced awareness, emotional growth, and transformation. These findings suggest that the continued implementation of SGE in educational settings at universities could contribute to improving the quality of students' university life.

